

平成25年度滋賀県環境審議会 環境企画部会（第4回）会議概要

- 1 開催日時 平成25年(2013年)10月28日(月) 15時00分～17時00分
- 2 開催場所 滋賀県庁東館7階大会議室(大津市京町四丁目1番1号)
- 3 出席委員 上田委員、鵜飼委員、占部委員、笠原委員、薩摩委員、西野委員、藤澤委員、本多委員、松井委員、水谷委員(萩ノ脇代理人)
(以上10名)
- 4 議 題
 - (1) 第三次滋賀県環境総合計画の進行管理
 - (2) 滋賀県環境学習推進計画(第2次)の進行管理

<配付資料>

- 資料1-1 平成24年度第三次滋賀県環境総合計画の実施状況について
- 資料1-2 「数値指標」進捗状況
- 資料1-3 重点プロジェクト進行管理票
- 資料2-1 滋賀県環境学習推進計画(第2次)の進行管理実施方法
- 資料2-2 平成24年度県環境学習関連事業の自己評価に係る総括報告
- 資料2-3 県環境学習関連事業の進行管理のための個表
- 参考1 滋賀の環境2013(平成25年版環境白書)
- 参考2 第三次滋賀県環境総合計画の改定について(滋賀県環境審議会答申)

5 概要

(1) 第三次滋賀県環境総合計画の進行管理

委員：

それでは、早速ですが議事に移らせていただきます。第三次滋賀県環境総合計画の進行管理につきまして、事務局、説明をお願いします。

事務局：

<事務局より説明【資料1-1～1-3参照】>

委員：

ただ今の報告に対してご意見、ご質問がありましたら、お願いいたします。

では、私のほうから確認させていただきたい。資料1-2の2ページ、3の「地球温暖化対策」のところ。「温室効果ガス排出量の削減率」ということで、基準年度に対する実績が書いてあります。たぶんこれは基準年度を18年度にしたとき、このような数字になるということだと思のですが、温室効果ガスについては、平成2年比に対して将来的に50パーセント削減するという数字がここにありますよね。

基準年が違うので、パーセントだけを単純に見ると分かりにくい。これはさっき私が言ったような計算方法で出された数字でしょうか。

幹事（担当課）：

温暖化対策課でございます。

ご質問について、基準年度に対する実績の内容としては、平成2年比で何パーセント削減するかということでございます。

委員：

要するに平成2年度を基準にし、平成18年度には、7.7パーセント削減しているわけですね。それで22年度中期目標は、7.7をさらに9まで減らそう、ということですね。その基準というのは、平成2年の数値になっているわけですね。本当だったら24年度の値が出ればいいですが、それが出ていないため、22年度の数値で評価すると9のつもりだったのが13.8であるということ、それを使って星5つとされている、それだけのことでしょ。

事務局：

おっしゃるとおりです。ここの基準年度の実績と書いてある7.7というのが、平成2年度比で7.7。ここからどれだけ減っているのかという比べ方をしております。

委員：

分かりました。他にご質問、ご意見をお願いいたします。

委員：

資料1 - 3の進捗管理票を見ると、数値が上がっているものと上がっていないものがありますが、これは最終的に平成25年が終了した時点では何らかの数値指標が出てくると理解してよろしいでしょうか。

例えば、29ページの「南湖の生きもの再生事業」のところでは、25年度に、「遡上状況調査結果の整理・活用」、「つながり再生のための取組の検討」と挙がっています。これは数字では表しにくい部分もあるかと思いますが、25年が終了した時点での結果が報告されると理解してよろしいでしょうか。

もう少し具体的に言いますと、例えば27ページの「琵琶湖との関わりの機会拡大の取組」では、「湖魚料理の促進」、「琵琶湖や川に出かける機会の拡大」、「県民の参加機会の拡大」に丸が付いておりますが、それはどのように評価されるのか、2、3例を挙げてご説明いただければと思います。

事務局：

この目標自体を掲げたときは数字を置いておらず、来年度に第三次計画が終わり、まとめの段階で数字が出たものについては、ご報告できると思いますが、どのような整理の仕方で、どのように数字を評価し、最後まとめていくかという点については、今後考えさせていただきたいと思います。

委員：

数字で出せないものもたくさんあると思いますが、少なくとも文章で、「このように進みました」など、もう少し具体的な表現を書きいただかないと、進捗状況の評価が難しいと思いますので、その点よろしくをお願いします。

事務局：

今現在で数値として把握できる事業につきましては、一昨年度からできる限り数値を入れさせていただいております。当初は、数字は入っておりませんでした。やはり数字が入っていないと、進捗状況が分かりにくいというご指摘等もございましたので、できる限り今の時点で把握できる数値については入れさせていただいております。

ただ、「暮らしの関わり再生等」につきましては、事業というよりも、むしろ事業の総体みたいなかたちで書いているところがございますので、委員がおっしゃったように、最終的に事業の進捗状況等については文書、その中の例示で挙げられる指標のようなものがございましたら、そこを取り出して、来年、その評価に持っていければと思っております。

委員：

他にいかがでしょうか。

委員：

先ほどの推進状況のところ、「何々した」だけで終わらせている文面が多いと感じます。それをもって進捗状況と言っているのかというのは、すごく気になっています。例えば、数値で表しにくい観点であれば、これを導入した結果このような状況になったなど、例えばその団体にこうしてもらったというので、その団体がいい、何かそういう取組を発信できたみたいな事例などを書いたほうが、推進状況を今後県民に発信する場合であれば、もっと見えるのではないかと思いますし、県民の方も見たときに、こういうことをすれば自分たちもできるのではないのかなというのをどんどん発信や展開ができるのではないかと思います、それが1点目です。

もう一つが、関係各課にまたがっている部分で、関係各課との意見の調整についてお話しされていましたが、その中で、進捗状況もやはりそのような意見が出されていなかったことに疑問を持ちました。こういう問題があるということはあると思いますので、そういったことを今後の課題などに乗せたほうがいいと思いました。以上です。

事務局：

ご意見を参考にし、書き方を工夫させていただきたいと思います。ありがとうございます。

委員：

他にいかがでしょうか。

委員：

資料1 - 2の2番、「持続可能な滋賀社会の構築に向けた基盤づくり」のところ。「ビジネスメッセにおける有効商談件数」というのが数字の上では増えていますが、私もビジネスメッセに参加し、様々な業種があり、有効商談件数をどのように数えたのか疑問に思いました。環境ビジネスばかりではなかったように思いますが、星5つというのは過大評価をし過ぎているのではないかと思います。

事務局：

確かに環境だけの業種ではないかもしれませんが、環境に関係のある方が出展されており、ビジネスメッセの実行委員会が出している結果などを見ますと、名刺交換件数、商談が成立しかける件数、それから何らかの契約に結び付いた契約という、その3段階に分けてアンケートを取られていると聞いております。

ビジネスメッセに参加され、アンケートに回答いただいた方は環境ビジネ

スに関わる方だという理解で、アンケートの商談件数の数値が出ておりますので、それを目安に目標を設定していると思います。

よって、環境以外の業種分類別までどうなのかと言いますと、ビジネスメッセ事務局のアンケートの設定の仕方などをもう少し確認しないと、この場ではお答えできないというのが現状です。

委員：

そういうことなら、この数字は非常に曖昧であり、星5つという評価も曖昧になってきますね。

事務局：

ビジネスメッセの47,028という目標数値ですが、環境ビジネスに関わるものもおそらく織り込んで設定していると思います。

また、結果の数字も、おそらくそれを織り込んで精査していると思いますが、もう少し確認させていただきたいと思います。

委員：

よろしいですか。他にいかがでしょうか。

委員：

今のことに関連して、25年度の目標が47,028という1桁まであるのはなぜかと思いました。内容はそれぞれですので信用できるものとできないものがありますが、この結果が正しいと仮定して、「増加を目指します」や矢印で書いてあるものは具体案があるのでしょうか。

これは具体案があって可能なこともあるかもしれませんが。家庭のごみの量を減らすということは、もっと意識を高めさせるといったことで実現できるかもしれませんが。しかし、これは数年前から言っておりますが、カイツブリという鳥の数を増やすために具体的にどうするかを考えず、毎回同じものを出していたら、脳がないと思います。基本計画の年度内であればいいかもしれませんが、今度は大幅にこういったことを見直す必要があるのではないかと感じます。

事務局：

今のカイツブリの件について、これは目標設定をした平成21年度から継続して追い掛けているものであり、この指標を自然環境の指標として設ける妥当性については、前回、前々回もご指摘を頂いております。

21年からずっと追い掛けているということで、今現在、載せておりますが、今度、第四次の計画を策定する際には、それぞれの分野別計画で設定された目標等を指標として取り入れ、総合的に評価していくという形態を取りたいと考えております。

今ご指摘を頂いた指標等、できるだけその成果が見えるような指標をその中から選び、そして今の状況でどういった課題があるのかを総合的に見せられるような第四次の進捗状況にしていきたいと思っております。申し訳ございませんが、来年度もこの指標自体が挙がっておりますので、適当ではないかもしれませんが、続けてここについては載せていきたいと思っております。

委員：
了解です。

委員：
他にいかがでしょうか。

委員：
減らず、増やすという部分がありますが、例えば、増やそうと思っていたが減ってしまった。悪化したということは、数値だけ見ればマイナス要素ですが、そのようなものは25パーセント以下ということで1つ星になっていますが、少しでも前進して25パーセントの1つ星と悪化をしてマイナスになった1つ星というのは、性格的には違うのではないかと思います。100あるうち25まで前進した1つ星と、マイナス30になった1つ星というのは意味合いが違うような気がして、特にこの水質の部分については、ある意味では琵琶湖の生態系の中で一番シビアな数値であり、1つ星が多いことについてどう考えるのか。また、このような表現が分かりやすいのか気になります。

事務局：
平成24年度の進捗状況の星印では、23年度の評価と比べて、どのように変わったのかは見えにくいと思います。そういった説明が不足しており、申し訳ありません。

全体的に星の動きを見ると、星5つの部分が平成23年度と比べますと、5つ評価が上がっているものがございます。具体的には、2ページ目の「持続可能な滋賀社会の構築に向けた基盤づくり」のビジネスメッセの有効商談件数が星4つから5つに上がっております。また、温暖化対策の一番下の太陽光発電における総発電量の容量やカイツブリの生息数も、かなり変動があるものであると認識しておりますが、23年度は星1つといったものが星5つにまで上がっております。

また、(5)の「大気・化学物質・その他の快適環境」のところですが、「主要渋滞ポイント数」が改善されて星が上がっていること、また「廃棄物・資源循環」の4つ目ですが、「不法投棄など産廃不適正処理事案新規分年度内解決率」が向上し、星4つが星5つになっております。

逆に、委員がご指摘のように星が1つに落ちてしまったものもございます。特にそれが多かったのが、ご指摘の「琵琶湖の水質」のところです。(4)の

「琵琶湖の水質」のところが軒並み下がっております。私どもの分析では、非常にこの星のぶれ幅というのが微妙なラインでぶれるところだと思っています。コンマ幾つかの世界に、星が、環境基準が達成、未達成になるところでございますので、星5つだからすごくよくて、星4つだからどうのという、その刻みが大変微妙になっていると思っております。

環境基準を達成するよう努力していかなければならないと思っておりますが、非常に指標にぶれがあるもの、傾向としてずっと改善されていくものがありますので、注意して分析していかなければならないと捉えております。そういった部分が見えにくいので、そこについては、十分説明させていただくとともに、答申を頂きました第四次計画では、もう少し工夫していきたいと考えております。

委員：

他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

委員：

先ほどご指摘にあった琵琶湖の水質のように、年変動や気候変動の影響を受けるものについては、去年より今年が高い、低いという議論をしてもあまり意味がなく、5年移動平均などを見ないと意味がないと思います。

よって、指標を設定するときに、長い期間でみる指標というのは別扱いにし、5年移動平均などで評価するもの、それから年々評価するものに分けるとよいと思います。例えば、ビジネスメッセは年々評価が可能だと思いますので、今度、指標を設定されるのであれば、どちらかに入れられた評価というのが重要になってくるかと思えます。

また、先ほどカイツブリの話が出ておりましたが、確かカイツブリは20年前と比べるとかなり減っていたと思います。カイツブリは潜って餌を食べる鳥ですが、水草の問題があり、それから魚が減ってきたため、20年前に減っていたと記憶しております。これについても、毎年データの他に20年前などのデータがあれば、長期的な傾向で多い少ないということの評価するランクが必要ではないかと思えます。

新たな指標について、これから考えていくことは大変重要だと思いますが、これまで取ってきたデータを切って新たにすると、データの継続性という意味がなくなりますので、指標については、これまでの指標と交ぜて併用するようなかたちで新たな指標を検討されるとよいと思います。過去の継続的な指標も意味があると思いますので、それは少なくとも何年間かは併用していく必要があると考えます。以上です。

事務局：

資料の中に「滋賀の環境2013」がございます。その45・46ページで、琵琶湖の水質についてのグラフが掲載されております。

第四次環境総合計画の中では、このグラフと同じグラフを載せ、こういった傾向にあるのかということを書き記述しております。今後は委員のご指摘のように、第三次総合計画の進捗状況を示すときに、こういったものについては、こういった補足の資料を載せていくことによって全体の傾向が分かるようにしていきたいと考えております。

委員：

これは、ウェブ上で公開されるのでしょうか。それを県民が見られたときに、例えば二大目標の温室効果ガスに対する様々な取り組みについて個別に評価してありますが、総括的に言えばこのような状況であったという表現はありません。そういった説明があったほうが良いと思いますが、いかがでしょうか。

事務局：

今、第三次計画の課題になると思っているのが、二大目標の琵琶湖の再生と低炭素化社会を実現するという目標です。全ての分野に縦軸横軸の関係にある、この指標の全ての理念にある目標だと捉えております。そういった意味で、この二大目標に照らし合わせてみてどうかということは、この指標の数字だけを追っているのは難しいところもございます。

しかし、二大目標について説明責任があると思っておりますので、こういったふうにご数字から見えてくるのかという分析は必要であると思っておりますが、もう少し検討していきたいと考えております。

そういった意味で、ご議論いただきました第四次計画において、総合的な評価がより重要だという議論をしていただいたと理解しておりますが、第三次計画についてもできることから取り入れていきたいと考えております。

委員：

分かりました。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは2つ目の議事に移らせていただきます。「滋賀県環境学習推進計画（第2次）の進行管理」について、事務局より説明をお願いいたします。

（2）滋賀県環境学習推進計画（第2次）の進行管理

事務局：

<事務局より説明：【資料2-1～2-3参照】>

委員：

それではただ今の説明に対し、ご意見、ご質問がありましたら、お願いします。

委員：

星1つ、星2つ、星3つという評価は、例えばミシュランであれば星1つでも評価されたらいいということですよ。

しかしこの場合、目標達成できていないのに星1つを付けるというのは違和感があり、この資料の中で星3つ取ったところが増えたとか、努力されているのは分かりますが、その表し方に非常に違和感があります。例えば星を使うということ自体がそぐわないのではないかという気がします。

委員：

今のご質問と関連して、達成度の星が1つ、2つ、3つの評価基準がよく分かりませんでした。

例えば資料2-3の6ページについて、湖魚料理の提供率が98パーセントで実施されたため星3つという評価はよく理解できます。しかし、14ページを見ると、星1つになっており、それは目標が数値になっていません。例えば、12ページは星3つになっておりますが、数値で表されていない場合の評価基準はどうなっているか教えてください。

事務局：

評価の方法について、様々なご議論がありました。環境学習という事業の性質にもよりますが、人づくりに関して、事業目標をアウトプットで指標を示している場合は分かりやすいですが、定性的に目標を設定しているところもあります。

これら全てが環境学習を主たる目的にしているのではなく、環境学習に関連した事業を行っているという性質の事業もこの中に含まれています。ただ、環境学習に関連している事業で、定性的にしか評価できないからといって、それを排除してしまうのもどうかという議論でしたり、例えば星が3つありますが、なかなか評価にそぐわないため、やめておくということもありますが、やはり見える化することが大切です。そのような中で、当初の目標を達成したところは星3つ、8割以上をおおむね達成できたところが星2つ、達成できていないところが1つというように少し幅を持たせつつ、見える化しようという事務局の試みです。

こういったご議論は、昨年度の審議会などからも頂いており、引き続き、この進行管理の方法につきましては検証していきたいと考えております。

委員：

例えば、12ページは星3つになっておりますが、どのような基準で星3つになっているのでしょうか。

事務局：

考え方としては、定性的な評価の方法をしておりますが、下水道の理解と

関心を高めることに対し、事業の目標を果たしてきたかを下水道事務所から報告をいただいています。

このように、それぞれの事業の中で目標を設定し、それについての目標達成度を示しています。ただ、事務局から「できるだけ根拠を示してほしい」と各担当課には呼び掛けていますが、根拠が出ておらず、数値設定が難しいというところもあり、事務局としては全庁的に定量評価できるように呼び掛けていきたいと考えています。

委員：

この12番については、バラ園の参加者の数が多かったため星3つという理解でよろしいのですか。

事務局：

参加者の数だけで星3つにしておりません。事務所では定性的な評価をしており、この達成度については、参加者の数もあると思いますが、総合的な評価を行っております。

しかし、できるだけ見える化をしていきたいと思っておりますので、できる限り根拠等を書いてもらえるように事務局としては努力していきたいと思っております。

事務局：

加えて、答申を頂きました第四次計画の内容においても、環境学習の評価をどのように行うかが非常に難しいですが、第四次計画の中では、基本的にはアウトプットの指標ではなく、持続可能社会に向けてどういった実践が進んでいるのかというアウトカムの指標を、できるだけ環境学習の中で取り入れていこうと考えております。それと併せ、総合計画の中では、総合評価を取り入れる方向で今後検討していきたいと思っております。

委員にご指摘を頂きました、どのような評価で星3つになっているのかについて、今の時点ではこういったことになってはいますが、先ほど担当から説明がございましたように、できるだけ定量的な評価で星が3つになったということを示せるようにしたいと思っております。

さらに、最初の星の付け方について、星を付けることについての違和感があるというご指摘がございました。確かにそういったご意見もあると思いますが、一方で、どこまで達成できているのかを見える化することも必要であり、そのバランスも見て星を使っております。

ここでは、星とさらに今後の方向性ということですね。12ページの「今後の課題・方向性」のところに記載がありますが、こういった課題をどのように次のステップに活かしていくのかも大切だと思っており、星による評価とともに、この方向性のところを重視し、次の施策につなげるようにしていきたいと思っております。

委員：

他にいかがでしょうか。はい、どうぞ。

委員：

同じ部分になりますが、個票について23年度に予算が付いているということは、その年に事業があったと思いますが、達成度の星のところにも23年度は星が幾つあったのかを比較するために書かれたほうがいいのではないかと思います。

事務局：

個票の作り方について、比較できるほうがよいというご指摘でしたら、そのように修正させていただくことはできると思いますが、入れてしまうと、逆に個票がわかりにくくならないかをもう一度点検させていただきながら、事務局で個票を改善していきたいと思います。

委員：

他にいかがでしょうか。

委員：

学習という言葉がありますが、結局ここに出ているのは、効果が出ないため、学習したかどうかは分からないわけですね。こちらの押し付けの教育など、こちらのほうのこういうことをやりましたということだけではありません。

よって、それを評価することは元々難しいことであり、それがとりあえずできないからには、もう少し詳しくデータを入れていただきたいと思います。例えば、参加予定者数に対して何名しか来なかったからどうなのかといったことが分かりません。それに基づいて星が2つになるのか、3つになるのか。これだけを見ていたら、星が3つになってもよさそうなのに2つしか付いていないなど、様々ありますので、そのところをもう少しやっていただきたい。また、基本的にその学習効果を分からせるようなことですね。環境に関する県の統一試験をやるなど、将来的には考えたらいいのかもかもしれません。

事務局：

ご意見ありがとうございます。

委員：

事務局は参考にしていただきたい。他にいかがでしょうか。よろしいですか。ではご意見、ご質問がないようですので、次の議題に移らせていただきます。3つ目の議題に「その他」として、事務局から何かございますか。

事務局：

＜事務局より説明：【参考資料2参照】＞

委員：

ありがとうございました。何かご不明な点などございますか。

最後に、本日の議事全体を通して、あるいはその他ご意見などございましたらご発言をお願いいたします。

ありがとうございました。本日の議事については以上です。それでは、進行を事務局にお返しします。